自由民権記念館だより

自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

□ 企画展「自由民権と憲法」
□ 事業報告『高知市史　民俗編』出版記念シンポジウム
□ 平成26年度夏休み子ども歴史教室の報告
□ 資料紹介「憲法発布式桜田之景」

VOL.77
2014 September

『地方都市の暮らしとしあわせ　高知市史　民俗編』出版記念シンポジウムより
パネルディスカッション「地方都市から『地域』の都市へ」

リレーエッセイ
博物館の底力

一九九九年、当時大学院生で学芸員課程を履修していた私は、町田市の自由民権資料館に勤めていた先輩の紹介で、地元高知の自由民権記念館で博物館実習をさせていただくことになった。今思えば実習生のなかで一人だけ院生で維新史専攻だった私は、さぞ小生意気な学生だったに違いない。友の会の会員でもあり、時折高知から届く「自由のともしび」や「民権の炎」は、永く故郷を懐かしむよすがとなった。

その後しばらくして坂本龍馬記念館の学芸員になり、このたび自由民権記念館の協議会委員を拝命することになった。小生意気な実習生としてお世話になった過去を思うと恥ずかしい限りだが、恩返しも含め、精一杯のことをさせていただきたい。

十数年博物館施設で働いてきて思うのは、第一に質量ともに豊富な収蔵資料、加えて教育や研究などでその資料を活かす人間が館内外になるべく多くいることが、博物館の底力になるということである。しかし後者については、内部の人手不足や業務繁多で、どの館も苦戦を強いられている。自由民権記念館も例外ではないと思うが、その財産である豊富な資料群を有効に活用し、アピールする道を模索しつづけていただきたい。

全国的に民権研究が停滞していると言われて久しいが、昨今の政治や社会情勢を見ると、権利を求めて立ち上がった先人の歴史をもう一度なぞる時代が来ているように思う。民権運動発祥の地・高知から、この時代に新たな民権研究とその活性化の動きが起きることを期待したい。

高知県立坂本龍馬記念館主任学芸員
亀尾　美香

企画展

自由民権と憲法

■期間　2014(平成26)年10月25日(土)～2015(平成27)年5月31日(日)

■会場　自由民権記念館2階　特別展示室

日本において、人びとの中で憲法が本格的に論じられたのは、自由民権運動と戦後日本国憲法制定の時期です。そして現在、憲法をめぐる議論が活発になろうとしています。

本企画展は、「リバティおおさか　大阪人権博物館」の特別展「歴史の中の憲法」に連携し、自由民権運動の中で生み出された土佐の憲法草案の意義について考えます。

自由民権運動の中で憲法草案が本格的に起草されたのは一八八〇（明治十三）年秋からです。

一八七九（明治一二）年三月、立志社は一八七五（明治八）年に結成したものの消滅していた愛国社の再興を決定、西日本各地に愛国社再興遊説を行い、九月に大阪で愛国社再興大会を開催しました。

愛国社は翌年十一月の第三会に三師社など東日本の有力結社が参加したことで全国的な組織に成長し、この会議で国会開設請願の方針が決議され、半年後の一八八〇年三月の大会で願望書案を決定することとしました。これを契機に国会開設請願運動が全国的に展開されたのです。

予定どおり愛国社第四会は大阪で開催されましたが、これとは別に国会期成同盟が結成され、二府二十二県八万七千人の署名を添えた「国会ヲ開設スル允可ヲ上願スルノ書」を政府に提出しました。

しかしこの上願書は政府に拒否されたため、その後の運動方針をめぐって立志社からは請願路線には限界があり、「今後ノ策ハ各地各個ノ請願ヲ止メ、更ニ天下ノ公衆ト協議シ、全国人民ノ過半数ヲ得テ、進テ私立国会ヲ設ルニアルベシ」（『愛国新誌』一八八〇年八月十四日）という方針が提起されました。

こうして、十一月の国会期成同盟大会は「第三条　来会迄には其府県国郡の戸数過半数の同意を得て出会するを目的とす」「第四条　来会には各組憲法見込案を持参研究す可し」という「国会期成同盟合議書」を採択したのです。

各地から過半数の同意を得た代表が集まって憲法見込案を検討するということは、事実上民間主導で憲法制定国会を開催するというものです。

これによって全国各地で憲法草案が検討、起草されました。翌年の一八八一（明治一四）年十月各地の代表は東京に参集しましたが、明治一四年の政変（十年後の国会開設・憲法欽定）の影響で、この会議は実現せず民権派は政党結成へと進むこととなります。

土佐では植木枝盛の「東洋大日本国々憲案」立志社案の「日本憲法見込案」が今日に伝わっています。

これらの憲法草案は次のような思想に立脚しています。

一．人は生まれながらにして自由且つ平等である。（自然権思想）

二．人権を実現するために人は契約を交わして国家を建設する。（社会契約思想）

三．憲法が契約書である。それゆえ憲法制定権者は人民である。（人民主権論）

四．憲法制定プロセスは、人民主導で公開されなければならない。（国約憲法）

五．ほぼすべての自由権は無条件に保障される。

六．抵抗権・革命権の規定がある。

これは今日の日本国憲法に通ずるもので、また「東洋大日本国々憲案」は日本国憲法制定過程で参考にされています。

（筒井秀一）

▲「日本憲法見込案」

▲馬場辰猪著『天賦人権論』

▲植木枝盛著『無天雑録』

▲「東洋大日本国々憲案」

館蔵資料の出展

―旅する資料―

博物館は展示会のため、互いに資料の貸し借りをおこなっています。今年も、当館所蔵資料が、各地の博物館で展示されますのでご案内します。

【高知県立坂本龍馬記念館】「風刺画にみる幕末社会展 ―あの絵に潜むおもしろさ―」

7月5日（土）～10月3日（金）

この展示会は「風刺画の符号を詳細に解説することで、錦絵に描かれた風刺精神を楽しんでいただくとともに、政治史の視点とは異なる『庶民の視点』から、改めて幕末社会」を考えるものです。

幕末期に流行した「風刺画」には、出版規制をのがれるため、「人物の衣服に大名の名や地名、家紋、土地の特産物などを模様としてしのばせ」てあり、人々はその謎解きを楽しみながら、情報を得ていました。

この展示会に当館から、「武鑑」（列藩一覧）を出展しています。

武鑑は、大名家の国元や石高、家紋、藩主の位階などを記したガイドブックのような書物で、庶民が、家紋や産物などの絵解きをするのに必要な情報をどこから得ていたのかを表す資料として展示されています。

▲「風刺画にみる幕末社会展」チラシ

▲「列藩一覧」

【リバティおおさか 大阪人権博物館】「特別展 歴史の中の憲法」

7月22日（火）～9月20日（土）

この展示会は「立憲政治の実現をかかげて展開された自由民権運動からアジア太平洋戦争後の日本憲法制定までの時期に歴史の節目で書き記された数々の憲法草案に込められた思想、そしてその実像」について考えるものです。

国会開設・憲法制定を掲げ人々の政治参加の実現を目標とした自由民権運動の中で様々な憲法草案が作成されました。また、「アジア太平洋戦争後の占領下にも多くの個人や団体が、新しい時代にふさわしい憲法についてさまざまな意見をだし」憲法の理解を深めました。

▲「特別展 歴史の中の憲法」図録

当館から、自由民権運動に関する十点の資料を出展しています。

- 立志社の憲法草案「日本憲法見込案」
- 愛国社の機関紙『愛国志林』『愛国新誌』
- 植木枝盛が自己の思想を記録した『無天雑録』
- 人力車夫たちが組織した「力役自由党規則」
- 馬場辰猪著『天賦人権論』
- 中江兆民著『策論草稿』『三酔人経綸問答』『一年有半』『続一年有半』

▲『三酔人経綸問答』

▲『愛国志林』

【衆議院憲政記念館】特別展「明治に活きた英傑たち ―議事堂中央広間から歴史を覗く―」

11月5日（水）～11月28日（金）

国会議事堂の中央広間には四隅に台座がありそのうち三隅に、伊藤博文、板垣退助、大隈重信の銅像が置かれています。これらは一九三八（昭和十三）年に大日本帝国憲法発布五十年を記念して制作されました。

この展示会は「明治維新後の新たな国家体制の下で発展していくことになった、立憲政治の成り立ちと経過を、三名の活躍を軸に、激動する明治時代の諸相を交差させて関係資料により紹介する。」ものです。

当館からは、板垣退助に関する資料など十三点を出展する予定です。

- 板垣退助関係「板垣総理被害短刀」「ルイ・ヴィトン社製トランク」「朱塗御紋附蒔絵盃」「八稜鏡形　鶴文」「短剣」「勲一等旭日大綬章」「辞令書『位一級被進』」「扁額『死生亦大矣』」「日本銀行券　百円」
- 自由民権運動関係「（立志社）建白書　写」「立志社創立趣意書Ⅰ」「自由党盟約」「日本六大政治家乃肖像」（筒井秀一）

▲ルイ・ヴィトン社製トランク

『地方都市の暮らしとしあわせ　高知市史　民俗編』

出版記念シンポジウム
地方都市から「地域」の都市へ

■二〇一四（平成二六）年七月一二日／民権ホール

高知市では、二〇一二（平成二四）年三月に『描かれた高知市　高知市史　絵図・地図編』、本年三月には『地方都市の暮らしとしあわせ　高知市史　民俗編』を出版しています。

この出版を記念して、当館・高知市史編さん委員会・高知市史研究会（第七五回研究会）の三者が主催し、民俗編の特徴や地方都市研究の在り方などを検討するシンポジウムを開催しました。

基調報告
『地方都市の暮らしとしあわせ』の新しさと面白さ

荻野　昌弘 氏（関西学院大学社会学部長：社会学）

この民俗編は、他の自治体史とは違い、通読に堪える大変興味深く画期的な出版物です。なぜ興味深いのか、それは食欲・色欲など人間の基本的な欲望に注目し、普通の生活者や女性など、多様な目線から都市の生活が描かれているからです。そしてあたかもタイムスリップして人びとと一緒に生活しているように読める斬新な内容となっています。

その魅力を三点にまとめてみます。

第一は「都市の欲望」からとらえていることです。都市は村と違い、人・もの・情報が集まるところです。人は欲望をかなえようとして都市に集まってくる、これは新しい視点です。そして都市は、欲望を方向付け、それなりにコントロールしながら満たす仕掛けを持っていることがこの本でよくわかります。

第二は「ジグザグな『歴史』」を見ているところです。都市の生活は一方向に流れているわけではありません。災害や戦災で街は壊され、また時代に応じて常に新生されている側面があります。

この本では、戦後復興と直接間接に関係して、災害の後に都市新生の希望を託してつくられたよさこい祭り、ニュータウンの人びとが自分たちの知恵を自由に出し合って新たなものを生み出すなど、都市の中で新たな文化が現在進行形で創られていることが描かれています。

第三は「未来に開かれた市史」です。過去の記述だけではなく、高知市の未来につながっている、これは大きな特徴です。この本の最後は天ぷら屋さんの語りで終わっています。歴史の本としては不思議な終わり方ですが、歴史が完結していない、味という人びとが漠然と共有してきた無形の記憶という財産を使って、これから新しい未来を創っていくことを暗示させるものとなっています。

最後に、高知市が世界とどうかかわってきたのか、これからどうかかわっていくのか、そういう続編を期待しています。

執筆者報告
市民とつくる民俗学
―『野の学問』への道

島村　恭則 氏（関西学院大学社会学部教授：民俗学）

八年間多くの人たちのお話を聞いてきました。話し手の方が語りたいことを語ることがポイントですが、それとこちらの聞きたいことが共振関係になっていくこともあります。

ベストセラーになったのは、皆さんの琴線にふれたのだろうと思いますが、一方これはちょっと違う、これならもっと面白いことを知っている、という人もたくさんいるはずです。

そこで、続編をつくるとすれば、どのようにするか、二つの事例を紹介します。

尼崎では、あまがさき未来協会が、ネオ・フォークロアなる取組をしています。ネオ・フォークロアとは「あらゆるフィールドにわたって、人びとが話したい、聞きたい、語り伝え記録に残したいと望むものを」対象とし、人々が自発的に参加する「新しいスタイルの文化運動」というものです。

市民が自ら民俗学を運動として行っているわけです。

次に、アメリカ、テネシー州のジョーンズボロという町では一九七三年から「ナショナル・ストーリーテリング・フェスティバル」が開かれています。この町は没落し、経済破綻寸前の田舎町だったのですが、まちおこしのために、ラジオの「ほら話」にヒントを得た高校の先生の提案で始まりました。

フェスティバルでは、皆が自分の人生にまつわる話を発見し、語ることで、「人びとの小さな輪の中に、ある種の絆」が生まれ、「さらに現代に生きる私たちといにしえに生きた人びとの間にも、名状しがたい絆」ができあがったそうです。

語りたいことを語る、この民俗編を呼び水に、高知の語りが続いていくことを期待します。

執筆者報告
日本人は『街』が好きなのか？

髙岡　弘幸 氏（福岡大学人文学部教授：民俗学・文化人類学）

私は大阪生まれ育ちですが、「都会っ子」ではなく、割引券、路地裏、近道といった暮らしの知恵に満ちた「街っ子」だったと思っています。

高知には一三年間いました。驚いた

のは、高知の人は歩かないことです。だから高知にも面白い店や素敵な路地裏があるのですが、街のことをしらない人がけっこういました。ちなみに私たち夫婦の歩行圏は、高知の人は驚かれると思いますが、東石立の住まいからイオン、ベスト電器、サティ、全く苦にならない、だから面白いものをたくさん発見しました。自動車族の人は知らないんですね。

それで、学生と一緒に街を歩きました。高知だけでなく松江、境港、富山、旭川まで足を伸ばしました。その成果はこの民俗編にも反映していますし、「女子大生の散歩道」という展示会を自由民権記念館で開催したこともあります。

二〇一一年から福岡に住んでいます。何か、ばさばさした無味乾燥な街で、土佐道路沿いを歩いているような感じなんですね。よくよく調べてみると実は福岡は小倉の郊外だったというところがあるようです。

福岡も戦災後のまちづくりだったわけですが、やっぱり東京にあこがれ無味乾燥なまちになったのかなと思います。

山口瞳の「江分利満氏の優雅な生活」に、アパート式の社宅がぞくぞくと建った川崎市の新興住宅地のことが出てきます。山口は「まるで西部劇にでてくる開拓地の様相である。」、「街に歴史がない。だから街の匂いというものがない」と述べています。

今、高知に匂いはあるでしょうか。歴史を観光資源として消化しているだけですが、本当に大丈夫でしょうか。イベントを否定するわけではありませんが、匂いというものを考えていただきたいと思います。皆さん街を歩きましょう。

パネルディスカッション

地方都市から「地域」の都市へ

パネリスト

荻野　昌弘 氏
島村　恭則 氏
髙岡　弘幸 氏
飯野　公央 氏（島根大学法文学部准教授：地域政策・財政論）
松岡　僖一 氏（当館館長：日本近代史）

司会　飯野先生、松岡館長から本の感想などを。

飯野　過去からのしがらみや差し障りを恐れず大胆に地域を切り取ると、まちが生きて見える。本書の一番の魅力ですね。

松江は歴史それも神話がありますので、過去にとらわれ、未来を語る土俵に立てない、というところがあります。

高知は、自由さ、前向きに考えようという気概があるのではないかと思います。

松岡　一番多感な時期に終戦となり焼け野原から七〇年かけてここまできた、その人たちの生きてきた時代そのものが語られている。それに教訓っぽくないところがいい。過去の生活文化をありのままに見つめなおす、そのことが想像力の源である、というメッセージが伝わります。

司会　地方都市研究におけるこの本の特徴は？

荻野　都市社会学も東京をモデルに都市を考えてしまうところがあって、地方都市はほとんど研究されていませんでした。この本は先鞭をつける役割を果たしたといえます。

島村　この本は、高岡説では、近世城下町は地名をはじめ、むしろ画一的で、それが明治になって農村部から人が入ってきて個性的になった。それを民俗都市と表現しています。ところが現代ではそれがだんだん画一化し民俗都市ではなくなってきたという枠組みで捕らえています。

高岡　松岡先生、この各地の城下町はそっくりで、その後多様性を持ったという捉え方をこの本では思い切って言い切ったわけですが、歴史学の方ではいかがでしょうか。

松岡　殿様が家臣団を連れて交代するということが珍しくないわけですね。それで幕府の意向や他藩の状況をみながら、政策を進めるわけで、表面的に似ているところがいくつも指摘できるのは当然あることで、興味深い論点だと思います。

荻野　学術的に最も興味深く、一番疑わしいのは、実は今の点です。江戸時代の都市は画一的で、明治時代になってから多様性が生まれたというのは大変大胆な指摘で、定説をひっくり返すものです。この本の隠れたポイントでしょう。ただ、空間的な割り振りが同じ、これは分かる。ではそこで実際に営まれていた文化は同じなのか、むしろ違うのではないか、この点がもっと論じられるべきでしょう。

島村　これまでの民俗学では、古いほどおもしろくて個性的で、近代になると画一化すると捉えてきました。それが今回、近世が画一的といえるかどうかはありますが、近代に個性がどんどん生まれたということを指摘したのは大事なところで、今もロードサイドショップに集まる若者の実践が画一的かどうか、違いを生み出しているのではないか。

荻野　ある研究者は現代都市を「無印都市」と表現していますが、フィールドワークをしてみるといろいろ面白いことがでてきます。つまり、高知と松江のロードサイドショップで若者は違う行動をしているんじゃないか。無印都市的高知と無印都市的松江はおそらく違う、こういうことが議論され始めてきています。

飯野　無印都市の話に学生は共感しています。目立たなくていいということです。個性を消すことによって存在感を出すという、私たちが思っている個性とは全く違う感じ方、暮らし方をかれらはしているのかもしれないという視点で検討してみたいと思います。

司会　地方都市の歴史、個性について議論してきました。最後に基調報告者から。

荻野　民俗都市から無印都市へというあらたな学術的課題が今日のシンポジウムで生まれたのではないでしょうか。

高知には潜在的文化的蓄積があるはずです。その活性化に高知の未来があると思います。

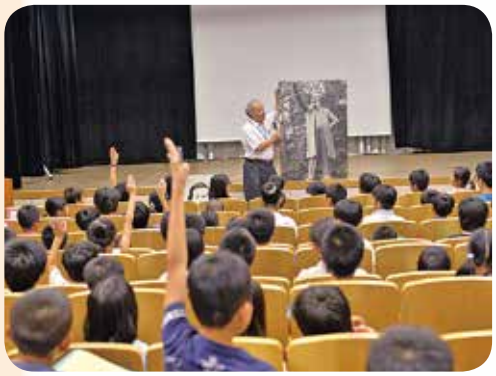
（文責　筒井秀一）

平成26年度 夏休み 子ども歴史教室の報告

7月24日（木）、今年で18回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で開催しました。

この催しは、自由民権運動の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌、劇などで楽しく学び、郷土の歴史について知識を深めてもらおうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学3年生までの92名が参加し、おおいに賑わいました。

運営にご協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」、劇団「笛の会」の皆さんありがとうございました。



朝早くから子供たちの笑顔と元気な声が飛び交い、日頃は静かな記念館もこの日ばかりは活気に溢れていました。

受付を済ませて民権ホールに入ると、班別の座席に座り開会式を待ちます。開会式のあと、「自由民権って何？」という当館制作のビデオを鑑賞し、先生からの説明をしっかり聞いたら、いよいよクイズラリーのスタートです。

クイズラリーでは、次の5つのチェックポイントがあり、各チェックポイントを通過するとラリーマップに民権家スタンプを押してもらうことができます。スタンプを5つ集めたらラリー完了です。各チェックポイントの内容は次のとおりです。

第1・2チェックポイント

常設展示室の展示資料の中からヒントを探しクイズに答えます。ちょっと難しい問題もありましたが、みんな一生懸命に挑戦してくれました。

第3チェックポイント

劇団「笛の会」のみなさんによる政談演説会を再現した芝居を観て、クイズに答えます。

当時さながらの迫力ある劇に驚き圧倒されながらも、子どもたちも聴衆の一人となって、「そうだ！そうだ！」とかけ声をかけたり、拍手をしたりして大いに盛り上げてくれました。

第4チェックポイント

自由民権運動の時代に実際に作られ遊ばれていた「民権すごろく」遊びを体験し、「上がり」を競い合いました。

第5チェックポイント

「高知県民謡協会」の皆さんの三味線と太鼓の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌います。生伴奏に最初は戸惑っていた子供たちですが、民謡協会の皆さんのご指導で元気よく歌いきりました。

参加者全員がすべてのチェックポイントを通過した後、閉会式が行われ、今年の歴史教室も無事終了となりました。子どもたちはとてもマナーが良く、楽しく取り組んでいました。皆さんお疲れさまでした。

（矢野　紫）

出題されたクイズの一例

問1 イギリス留学から帰国後、片岡健吉は板垣退助らとともに結社をつくって社長となり、明治10年には「建白書」を政府に提出して、憲法の制定や国会をつくろうと呼びかけました。この結社は何というでしょうか？

①立志社　②同志社　③自由社

問2 女性の選挙権を日本で初めて要求した高知市出身の女性、楠瀬喜多さんは何と呼ばれたでしょうか？

①民権かあちゃん　②民権ばあさん　③民権歌人

民権かぞへ歌（植木枝盛 作）一部のご紹介

一つとせ　人の上には人はなき
権利にかはりがないからは　この人じゃもの
二つとせ　二つとはない我が命
捨てても自由がないからは　この惜しみやせぬ
三つとせ　民権自由の世の中に
まだ目のさめない人がある　このあはれさよ
四つとせ　世の開けゆく其早やさ
親が子供に教へられ　この気をつけよ
五つとせ　五つに分れし五大州
中にも亜細亜は半開か　この恥ずかしや

クイズの答え：問1 ① 問2 ②

資料紹介

憲法発布式桜田之景

梅堂小国政画　一八八九（明治二二）年

大日本帝国憲法は、一八八九（明治二二）年二月十一日に発布された。

この画は、天皇一行が、皇居での憲法発布式典のあと、観兵式に臨むため、桜田門を出て青山練兵場に向かう場面を描いている。祝賀気分に沸き立つ東京の様子が伝わってくる。

この日は、全国で祝賀行事が行われ、東京でも一日中花火が打ち上げられ、祝砲がとどろき、町々の山車が繰り出すなど、人々は熱狂して憲法発布を歓迎した。

もっともこの憲法は、欽定憲法として秘密裏に制定されたので、人びとはその内容を知らされずにいたことになる。帝国大学医科大学教授であったベルツは「こっけいなことには、誰も憲法の内容をご存知ないのだ。」と日記に記している。

そして、その内容はかつて民権派が構想した憲法草案とはかけ離れたものであったが、憲法を公然と批判することは困難であった。

その中で、中江兆民は「通読一遍唯だ苦笑」し、「下らない憲法」であり「直ちに憲法の改正を請はざるべからず」と憲法改正を主張した。また、植木枝盛は「此の憲法は果して善く代議政体の本旨を得たるものにてある耶、果して善く文明の主義を移したるものにてある耶、我輩は今日に在りまだ少しも之を察思すること能はざるなり」と批判的発言を残している。（筒井秀一）

民権家人物録

植木（うえき）　枝盛（えもり）
（1857～1892）

植木枝盛は、土佐郡井口村中須賀（現高知市）において、土佐藩の中級武士・植木弁七（二十石）の長男として生まれた。藩校致道館で五年ほど学んだ後、上京して海南私学に入学したが、この学校は軍人を養成することを中心にしていたので、退学して帰郷した。

一八七四（明治七）年、一八歳のとき、板垣退助の演説を聞き政治に志した。

翌年、再度上京して板垣の家に住み込み、明六社の演説会や三田演説会にしばしば足を運び見聞を広めた。そして『郵便報知新聞』に投書した「猿人政府」が、「猿人君主」として掲載され、筆禍事件となり二ヶ月の入獄を経験した。

一八七七（明治一〇）年、西南戦争が勃発したとき、急遽帰郷した枝盛は、今や武力で世の中を変える時代ではないと考え、立志学舎で学ぶ若い民権家たちと言論による自由民権運動を開始した。理論的指導者の一人であった枝盛はわずか二一歳であった。若手民権家たちは芝居小屋で政談演説会を開催したり、『海南新誌』や『土陽雑誌』という機関紙を発行した。『海南新誌』第一号に、世の中の人から「自由は土佐の山間より発したり」といわれるようにがんばろう、と県民に呼びかけた。

枝盛たちは、一般の人に民権思想を広めるために、民権歌謡として「よしや武士」・「民権かぞへ歌」・「民権田舎歌」・「民権踊り」などを創作した。枝盛は、その後も演説・新聞・著作などをとおして自由民権思想を広める努力をした。代表作の一つ『民権自由論』は、人は生まれながらにして人間らしく幸せに暮らす権利があることを分かりやすく説明している。

枝盛は高知県内で活躍するにとどまらず、全国で活躍したが、一八八四（明治一七）年に自由党が解散した後は高知に戻り、『土陽新聞』において、男女同権の主張をはじめとした社会改良論を展開した。また一八八六（明治一九）年には高知県会議員になり、地方自治の拡大にも努力した。翌年の三大事件建白運動では、地元の運動の組織化に尽力した。そして一八九〇（明治二三）年、第一回衆議院選挙で当選して議員になったが、一八九二（明治二五）年、東京で病気のため亡くなった。

枝盛の功績の中で特筆すべきは、一八八一（明治一四）年に「東洋大日本国々憲案」という憲法案を起草したことである。国民主権論を採ったこの憲法案は、現行の憲法が起草されるとき参考に供された。（松岡僖一）

自由のともしび（Vol.60から）がホームページでご覧いただけます。
ホームページアドレス　http：www.i-minken.jp/

さようなら民権号

スタッフが親しみを込めて「民権号」と呼んでいた館の公用車が、今年の6月に引退しました。
1991年5月から23年間、本庁との連絡便や歴史資料の収集・運搬と、自由民権記念館と共に頑張ってくれました。

出版物のお知らせ

11月発行予定

『自由民権記念館紀要No.22』

○論文
「次郎長の済衆医院と土佐の医師、渡辺良三と植木重敏～山崎百次郎関係資料より～」　植木　豊

清水次郎長と親交のあった須崎出身の医師渡辺良三は、ノルマントン号事件で溺死した山崎百次郎の義兄でした。当館寄託「山崎百次郎関係資料」等をもとに、ノルマントン号事件や土佐出身医師についての新事実が明らかになります。

○研究ノート
「草莽の民権家・曽田愛三郎（研究ノート3）」
松岡僖一

この他にも論文等を掲載する予定です。500円（税込）

行事予定

自由民権講座 ～ホンモノの夜学会～

自由民権記念館開館25周年記念プレ企画として、自由民権講座を開講します。回毎にご参加できます。土佐の自由民権運動の歴史を振り返りながら、今一度、自由や民権について考えてみませんか。

●**日時**
第１回　10月10日（金）
第２回　　17日（金）
第３回　　24日（金）
第４回　11月　7日（金）
第５回　　14日（金）

●**内容**
龍馬から民権運動へ
板垣遭難
新聞の葬式
土佐の運動～懇親会を中心に～
よしや武士について

●**時間**　午後6時半～午後8時頃
●**参加費無料**　●**定員25名程度**

高知近代史研究会　第76回研究会

〔テーマ〕士族の運命　―士族・死族・死賊―
〔報告者〕松岡僖一（当館館長）

明治8・9年にかけて生じた論争（第二次民選議院論争・廃禄論争）において、士族は「平民の居候」・「素餐の徒」と徹底的に批判の対象となりました。こうした主張に華士族は有効な反論が出来ず、そのことが、華士族、特に士族の精神を鬱屈させました。そして明治9年秋から士族の反乱が続き、明治10年には西南戦争になります。
論争は、新しい時代に相応しい国民とは何かを問い、士族の反乱は彼らの時代が終わったことを示しました。

■高知近代史研究会　第76回研究会
日　時：9月27日（土）　15：00～17：00
会　場：研修室
報告者：松岡僖一（当館館長）　自由参加
テーマ：「士族の運命―士族・死族・死賊―」

■自由民権講座～ホンモノの夜学会～
日　時：10月10日（金）～　全5回
会　場：研修室
講　師：松岡僖一（当館館長）
土佐の自由民権運動の歴史を学びながら、自由や民権について考える。

●第14回「県詞の日」記念行事
日　時：10月13日（月・祝）
○**丸山台の清掃**　9：00～　雨天中止
会　場：丸山台（渡船をチャーターしています）
丸山台は板垣退助外遊帰県歓迎の地。集合場所など詳しいことは友の会まで
○**記念講演**　13：30～
会　場：研修室
講　師：岡田健一郎（高知大学人文学部講師）
演　題：「『右からの革命』と憲法」
定員60名程度

■高知近代史研究会　第77回研究会
日　時：11月29日（土）　15：00～17：00
会　場：研修室
報告者：亀尾美香　自由参加
（高知県立坂本龍馬記念館学芸員）
テーマ：「大石弥太郎の幕末・明治」

●「兆民忌」
日　時：12月13日（土）　時間未定
会　場：高知市筆山
筆山にある中江家の墓参り

●第18回民権凧まつり
○**土佐凧を作ろう**　要申込
日　時：12月23日（火・祝）　13：30～
会　場：自由ギャラリー
○**土佐凧を揚げよう**
日　時：1月4日（日）　14：00～
会　場：鏡川北岸 トリム公園

■第15回社会科自由研究作品展
日　時：〈予定〉1月17日（土）～2月19日（木）
会　場：自由ギャラリー
市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示

■高知近代史研究会　第78回研究会
日　時：1月17日（土）　15：00～17：00
会　場：研修室
報告者：渡邊哲哉（高知県立図書館）　自由参加
テーマ：「松野尾と吉村 高知県における近代歴史学のはじまり」

●「無天忌」
日　時：1月23日（金）　時間未定
会　場：高知市山ノ端町
植木枝盛の命日に墓所の清掃と墓参り

●「秋水忌」参加
日　時：1月24日（土）　時間未定
会　場：四万十市
幸徳秋水の墓前祭に参加する

■高知近代史研究会　第79回研究会
日　時：３月未定　15：00～17：00
会　場：研修室
報告者：中元崇智（中京大学准教授）　自由参加
テーマ：未定

●は自由民権記念館友の会の主催です。

予定は変更になる場合があります。詳しくは当館までお問い合わせください。

時代の郷（とき さと）
自由民権記念館
自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより　vol.77
発　行　2014（平成26）年９月１日　発行人　松岡僖一
発行所　〒780-8010　高知市桟橋通4丁目14-3　TEL.088-831-3336　FAX.088-831-3306